



平素は、NPO 法人日本伝統文化振興機構(JTCO)の活動にご理解とご支援を賜り、御礼申し上げます。

≪【新漆産業の事業開発レポート】いわて漆テック株式会社 ～JTCO 支援事業

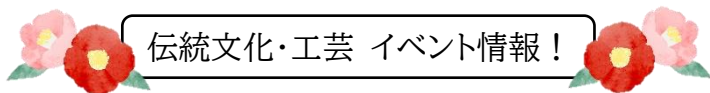
現代の日本において、漆製品を目にする事は少なくなりました。「漆器」とは本来天然漆のみを使用して塗装されたものを指し、それ以外の塗料を使ったものは「合成漆器」と呼ばれるのですが、今や人々にとって「漆器」も「合成漆器」も同じものです。漆よりも乾燥が早く使いやすい低コストの塗料は、器の大量生産を可能とし、我々の生活に欠かせません。

では漆はもう必要ないのかといえば、それは否です。漆の美しい艶、千年単位で現存する耐久性、年を経るごとに味わい深くなる色合いは、他のどんな塗料も再現できないものです。ですが、漆の木を増やすのにも伝統的な職人技術を継承する人材を育てるのにも、時間とコストが掛かります。乾燥に時間が掛かるのも漆が使いにくいと感じる一因でしょう。

これらの点を改善すれば、漆の使用率は上がるのではないのでしょうか。時代に合わせて漆の用途が変化拡大していったように、漆の採取・精製の技術にも革新が必要です。科学的アプローチや最新の技術を用いて漆の抱える問題を解決すれば、漆を更に幅広い分野で活用することも可能なはずで。

いわて漆テックでは、時代の要求に合わせた漆を精製することで地域産業の振興につなげようと考えております。

→いわて漆テック HP: <https://urushi.tech/>



伝統文化・工芸 イベント情報!

コロナ感染状況により予定変更になることもあります。
最新情報をしっかり確認して参加しましょう☆

- FUKUSHIMA CRAFT DINING [福島県] 1/16～2/12
<https://bit.ly/3R5BlT7> <工芸品の器で楽しむ食事>
- 砥部焼伝統工芸士会展 2023 [愛媛県] 1/2～2/19
<https://bit.ly/3JgVdYr> <10名の工芸士による作品展>
- 京焼・清水焼伝統工芸士会 [東京都] 2/3～2/16
<https://bit.ly/3JitRkG> <上絵付けの実演が行われます>
- 和ろうそく絵付け体験 [京都府] 2/11～2/12
<https://bit.ly/3WFkwXa> <随時参加受付中!>

季節の郷土料理

【しもつかれ】(栃木県)



- ◆ 材料(4人分): 鮭の頭 1個、大根 2/1本、人参 1本、大豆 40g、油揚げ 2枚、酒粕 150g、酢 大さじ2、水 7カップ、砂糖 大さじ2、醤油 大さじ1、塩 適量
- 栃木では、2月の初午の日に赤飯と共に稲荷神社に供え、無病息災を祈るのがしきたりです。大根や人参を「鬼おろし」という木製のおろし器を使って細かくおろします。また、正月の食材で余った塩鮭、節分で煎った福豆の残りの大豆を使います。近年、しもつかれの新たな楽しみ方を提案する「しもつかれウィーク」が開催されています。

→作り方や詳細はこちら <https://bit.ly/3HH7RPj>

伝統工芸ニュース

栃木県で伝統工芸品と伝統工芸士、新たに認定

栃木県伝統工芸品振興協議会の意見を受け、1月19日に栃木県庁にて工芸士の認定式が開催されました。認定式では、とちぎの伝統工芸品に「足利の金彩工芸」、「鹿沼総桐筆筒」、「和太鼓」が新たに指定を受けました。また、伝統工芸士として「鹿沼箒・鹿沼きびがら細工」と「益子焼」の職人2名に認定書が授与されました。とちぎの伝統工芸品として指定することにより、産業・地域経済の発展を図るとともに、安らぎと潤いのある県民生活を育むことを目的としています。→参考:栃木県 HP <https://bit.ly/3j82L4S>

平和への願いから生まれたコラボレーション

ウクライナの伝統と京都のものづくり技術を生かして共同で工芸品を製作する、「UKRAINE KYOTO CRAFT」プロジェクトをご紹介します。このプロジェクトは、ウクライナのデザイナー集団が戦禍の状況にある国を支援する思いから始まりました。京都の伝統産業を担う団体がその技術を生かしてデザインを行い、ウクライナで古くから伝わる民芸品をモチーフに作成しています。戦争のない穏やかな生活に対する願いがこもった、メッセージ性のある作品です。

→参考:WGD 京都 HP <https://bit.ly/3WI408A>